

2 全体会 主催者等あいさつ・来賓祝辞

○主催者あいさつ

■三遠南信地域連携ビジョン推進会議会長 浜松市長 鈴木康友



皆様、こんにちは。本日は、第21回となります三遠南信サミットに本当に多くの皆様にご参加をいただきまして、誠にありがとうございます。まずは、牧野市長を初め飯田市の皆様、そして南信州の皆様には、今回は南信州の開催ということで大変ご尽力をいただきましたことに厚く御礼を申し上げます。

また、関係省庁の皆様、関係自治体の皆様、そして経済団体の皆様、大学及び教育界の皆様、そして市民団体の皆様、本当に多くの関係者の皆様にご出席を賜り、こうして盛大に開催できますこと、大変うれしく存じます。

今回のテーマは「新連携体制の実現に向けて」ということで、このサミットも新しいステップに入らねばならない時期にきているのではないかと思います。このサミットに先立ちまして、先ほど三遠南信地域経済開発協議会の会議に出席をしておりましたけれども、三遠南信自動車道の整備促進のお話が出ておりました。昨年、三遠道路が一部供用開始となりましたが、それと同時に、東西の大動脈であります新東名高速道路が静岡県ほぼ全線供用開始になりまして、今、東三河には観光客などの交流人口が大変増えているという

San-En-Nanshin Summit 2013 in Minamishinsyu

ことでございます。我々遠州の北部の地域も、そうした効果があらわれているわけございまして、三遠南信自動車道の開通と新東名高速道路の開通、こうした社会資本整備によって地域に大きな波及効果が生まれているということ、大変うれしく思っております。

それからもう一つ、大事な変化がございまして、この三遠南信自動車道全線開通に向けましては、長野県側、愛知県側もほぼ目途がついておりまして、あとは私ども静岡県の中山間地域を通る部分をどうするかが問題となっております。これまでは現道活用という設定をされており、現実的に、その狭隘な道路を整備して高規格な道路として利用できるようにするというのは、至難の業であり、ほぼ無理だということでございます。この現道部分をどうするかということが大きな課題でございました。私もこれを、自分の任期のうち何とかしたいということで、あの手この手を尽くしました結果、国のほうでもう一度、国直轄と地元の整備と役割分担を見直そうという動きが出てまいりまして、今、水窪北から佐久間までを計画段階評価ということで、その計画の前段階の作業に着手をいただいております。これは本当に大きなことございまして、これで国の役割と、私ども浜松市が整備をする区間の役割分担が明確になりますと、完全に飯田から浜松までの全線開通の目途が立ちます。あとは、いかに早くこれを整備するかということになってまいりますので、粛々と期成同盟会や三遠南信サミットなどの枠組みの中で、整備促進に向けた取り組みをしていきたいと思っております。

また、先日はリニア中央新幹線のルートとリニア飯田駅の位置がJR東海から発表されたということで、いよいよリニア中央新幹線も俄然現実味を帯びてまいります。このリ

ニア中央新幹線の整備に向けましても、一層このサミットの枠組みの中でも推進をして参りたいと思っています。こうした我々、三遠南信地域にとって大変重要な社会資本に最近、大きな動きが出てまいりまして、一層この連携強化に向けたいろいろな好影響が出てくるのではないかと思います。

そうした中で、この三遠南信地域連携ビジョン推進会議、通称「SENA」と言うこの体制も見直しを図るため、今回、皆様に体制の強化と機能強化を図るためのご議論もいただきたいというように思っております。

それからもう一つ、今回は全国越境地域政策シンポジウムというものが開かれます。県境を越えた広域連携、いろいろな連携をしているのは、この三遠南信地域を含めまして全国に幾つかあります。こうした、それぞれの連携の取り組みの情報交換や、あるいは今後、横の繋がりによるいろいろな交流等の場が求められていたところ、愛知大学の三遠南信地域連携研究センターが文部科学省共同利用・共同研究拠点事業の越境地域政策研究拠点として指定をされたことによりまして、その研究の一環として今回、共催で初めてこのシンポジウムを行うということで、これも大きな意義のあることではないかなというように思います。

今回、この飯田で開催される第21回目のサミットは、いろいろな意味で新しいステップへ向けての大きな第一歩を踏み出す、そういうサミットになるのではないかなというように思います。

それからもう一つ、ご報告を申し上げたいのは、26年7月発足予定の新しい組織に向けまして、新たに自治体が参加をしていただくということで、我々にとって喜ばしいことだと思います。静岡県から掛川市、菊川市、御前崎市、牧之原市という4市が来年の新体制発足に向けまして正式加入をご表明いただいていますし、南信州からは駒ヶ根市、飯島

町、宮田村、中川村、この皆様にご参加をいただくということで、一層この三遠南信地域の連携が強化をされるということでございます。

20回の開催を経て、新しい第一歩とも言える飯田市開催での第21回目のサミットにおきまして、こうした次々と新しい動きがスタートをするということで、我々のこの三遠南信地域連携もいよいよ新しい時代に入ったかなというように思います。ぜひ、今日のこのサミットでは、活発なご議論をいただきまして有意義なものとしていただきたいと思えます。皆様にとって、この飯田での第21回三遠南信サミットが有意義なものとなりますことを心からご祈念申し上げまして、冒頭の御挨拶にかえさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

■三遠南信地域連携ビジョン推進会議副会長 飯田市長 牧野光朗



皆様、こんにちは。

本日は、この三遠南信サミット2013 in 南信州ということで圏域の多くの皆様方、このように一堂にご参集いただきまして盛大に開催できますことを、開催市を代表いたしまして感謝申し上げる次第でございます。本当に、ようこそ飯田にお越しいただきました。

飯田市は、りんご並木と人形劇のまちと言われますが、今年はりんご並木が誕生してからちょうど60周年、また人形劇のまちとしてスタートしてから35周年という、節目の年

になるわけでありませう。そのようなときに、この三遠南信サミットが飯田で開催されるということ、誠に意義深く思ひます。

また、本日は農林水産省、それから国土交通省、経済産業省それぞれの幹部の皆様方、そして長野県からは和田副知事に来賓としてお越しいただきました。本当にありがとうございます。このように多くの皆様方が参加していただいております三遠南信サミットでございますが、発足したのが平成5年度ということで、以来、三遠南信地域における県境を越えた交流連携、発展に向けまして、行政のみならず経済界や地域住民、あるいは大学の関係の皆様方、金融機関の関係の皆様方、本当にさまざまな皆様方にご参加をいただきながら、さまざまな議論、取り組みが進んでおります。こうした皆様方の一方ならぬご尽力によりまして県境を越えた強い結びつき、これは全国に類まれな取り組みであるというように私自身も自負しております。まさに、圏域におきましてこうした取り組みができませんのは、大きな財産と捉えております。こうしたすばらしい連携のもとに、県境を越えてさまざまな分野で今、いろいろな取り組みが進んでおり、これが県境地域の一つのモデルになっているのではないかと思ひます。

振り返って、我が国の今の状況を鑑みますと、これから少子化、高齢化、そして人口減少がますます進んでいくことが見込まれております。全国的にこうした状況が続く中で、いかにして地域としての持続可能性というものを追求していくか、これはどの地域にとっても大変大きなテーマになっています。そうした中で、やはり私たちが考えなければならないのは、小さな圏域の中で考えていても、行政の枠の中で考えていてもなかなか解決し得ない課題が多くある中で、やはり圏域全体で、それもなるべく生活圏や経済圏、あるいはそれ以上の枠組みというものを念頭に置きながら、その解決策を図っていくということ

が非常に重要になってくると思ひます。

当南信州では、全国に先駆けて14市町村におきまして定住自立圏協定を結び、地域におきまして人口減少や少子化、高齢化に対応できるような、そうした仕組みづくりを南信州圏域一体となつてつくつてきているところでございます。こうした考え方は、さらに広めていけば天竜川、豊川といった流域圏にもかかわつてくることと思ひておりまして、それがまさにこの三遠南信の圏域全体の将来ビジョンになっていくというように思ひます。やはり、スケールメリットを生かして市町村事務の共同処理をしっかりと担っていくような、広域連合の枠組みというものを三遠南信地域全体でも検討していくことができればというように思ひます。

また、古くから歴史的にも、文化的にもつながりの強い三遠南信地域であります。250万流域都市圏の創造ということで、三遠南信地域連携ビジョンもそのテーマを掲げているわけでありませう。こうした考え方というのは、圏域全体で共有できるものというように考えております。先ほど、会長からもお話がありましたように私どもの地域は、これからリニア中央新幹線が通るまちとして大きな変化を遂げていく、そういった状況になるかというように思ひます。先日、JR東海から環境影響評価準備書の公表がなされ、具体的な駅やルートの位置も確定してきております。こうしたリニア中央新幹線の時代に向けまして、私どもの地域が三遠南信圏域の北の玄関口としての機能を最大限に発揮していくためには、やはり三遠南信自動車道、そして浜松三ヶ日・豊橋道路を含めまして三遠南信圏域の縦の軸を1日も早く整備していくことが必要であると思ひます。こうした縦の軸と、東海道新幹線、あるいは東名高速道路、新東名高速道路、そして新たにリニア中央新幹線を加えた横の軸、こうしたものがうまく相乗的に機能することにより

まして、三遠南信圏域のより一層の発展が約束されてくるのではないかとこのように思います。そのためには、やはりハード面の整備のみならず、戦略的に地域づくりを進めていく必要があるというように考えるところであり、そうした中で今回のサミットのテーマが「新しい連携体制の実現に向けて～三遠南信連携の発展と越境連携地域交流～」というものになったということは、非常に時宜を得たものというように思います。来年度には、体制機能をより強化した新SENAも設置されますし、新しい時代に向けて新しい組織を立ち上げ、そして新しい考え方でこれからの地域づくりをしていけるよう、このサミットがその契機になればということをご期待するところでございます。

本日のサミットには行政のみならず議会、経済界、NPO、住民の皆様など、さまざまな立場の方々にご参加をいただいております。さまざまな角度から活発な意見、提案をいただき、このサミットが充実したものになりますようよろしくお願い申し上げます。今日ご参加いただきました皆様方の益々のご活躍、ご健勝を祈念して私からの挨拶とさせていただきます。

本日は、よろしくお願いいたします。

**■三遠南信地域連携ビジョン推進会議副会長
飯田商工会議所会頭 柴田忠昭**



皆様、こんにちは。本日、多くのご関係の皆様、そしてまたご来賓の皆様をお迎えい

たしまして、「新しい連携体制の実現に向けて」をテーマに第21回目を迎える「三遠南信サミット2013 in 南信州」を盛大に開催できますことは、大変大きな喜びでございます。また、この飯田の地に遠くからお集まりをいただきました皆様、誠にありがとうございます。心から御礼申し上げたいと思います。経済界を代表いたしまして、多くの皆様のご尽力に対しまして重ねて深く感謝を申し上げますところであります。

三遠南信地域の連携、この長い歴史がある活動の中で、県境を越えた取り組みと申しますのは全国的にも珍しく、先進的な活動と言われております。平成6年に第1回三遠南信サミットが開催され、平成19年には三遠南信地域連携ビジョンに合意をいたしました。平成20年には、三遠南信地域連携ビジョン推進会議、通称「SENA」と申しておりますが、これが発足し、将来像を「三遠南信地域250万流域都市圏創造」というように名づけてまして、3地域を一体的な都市圏として行政、経済、住民活動など、さまざまな分野の交流連携を一層強化することを目的としております。重点プロジェクトの中では、中部圏の中核となります地域基盤の形成や持続発展的な産業集積の形成などの事業を行っているところでございます。

本日も、この後の対談、あるいは分科会の中で「道」「技」「風土」「山・住」に分かれまして、この地域のインフラ、産業、観光など、熱い討論が交わされるものと期待をしております。特に、「道」の中での大きなテーマ、この南信州飯田の地に国家プロジェクトでありますリニア中央新幹線の駅が、今から14年後の2027年に実現しようとしております。三遠南信地域の北の玄関口として、三遠南信自動車道の早期開通実現とあわせて大いに期待をしたいものであります。

また、三遠南信地域経済開発協議会では

自動車道の1日も早い開通のため、民意を高めるために「卓上のぼり旗」を今回つくり上げました。そして、本日、ロビーにも飾ってありますので、ぜひともご覧いただきたいと思ひます。

最後に、三遠南信地域に住み、活躍されておられるそれぞれの地域の住民の皆様、団体、企業の皆様が三遠南信に対する熱い思いと活動のベクトルを一致させることにより相乗効果を発揮いたしまして、地域の振興が進展されますことを期待したいと思ひます。

本日は皆様、どうぞよろしくお願ひをいたします。

■農林水産省関東農政局長 藤本 潔 様



皆様、こんにちは。

本日は、第21回の三遠南信サミットにお招きをいただきまして大変ありがとうございます。また、主催者でいらっしゃいます三遠南信地域連携ビジョン推進会議並びに地元飯田市を初めとする関係者の皆様には、本日、ここに本サミットが盛大に開催されますことを心からお祝ひ申し上げます。また、ご臨席の皆様におかれましては、平素から農林水産行政の推進にご理解、ご尽力いただいていることを、この場をかりまして厚く御礼を申し上げます。

この三遠南信地域は私から言うまでもなく、天竜川、豊川流域を中心に県境を越えて連携して地域の活性化、これに取り組んでおられるということに対して深く敬意を表する

ものでございます。ただいま農林水産省では、首相官邸では「活力創造本部」、省内でも「攻めの農林水産業推進本部」というような検討組織を設けて、政府全体で「農林水産業・地域の活力創造プラン」というものを策定して、これから農林水産業を成長産業とするためにはどうしたらいいかということを検討しているところでございます。ここでは林大臣のもと、「現場の宝」というものを、すなわちこれは優良事例ですが、現場の優良事例を全国に横展開するということを通じて、農林水産業の競争力の確保を図っていきたいというように考えているところでございます。

この三遠南信サミットでございますが、今日は飯田で開催ということでございますので、ご当地の名産品に皆さん、もう御存じの市田柿というものがございますが、これを見てみますと、一次産業である農林業、二次産業である工業、そして三次産業であるサービス業、これをインテグレートして価値を高めるという六次産業化がなされており、これを成功させるための条件である、良い原材料のための栽培技術、そして柿もみなどに代表されるような確かな加工技術、さらに天竜川の川霧という豊かな環境と、このように三拍子そろったところに地域団体商標という知的財産の活用というようなことに、既に7年も前から取り組んでおられる全国でも有数の先進地というように考えております。また、この後、分科会では柚餅子の展開を通じた高付加価値化というようなことも検討されるというように聞いております。

もともとこの三遠南信地域というのは、野菜、果樹、花、そしてお茶という多様な農業が営まれる地域でございますけれども、最近では、これに信州大学や豊橋技術科学大学を初めとする地元の大学であるとか、企業との連携によってIT化や植物工場という新しい農業のあり方などにも非常に力を入れておられる地域だというように認識しております。

こうした取り組みによって、まさに我々が今、進めようとしている「攻めの農林水産業」これを本当に地でいっているという地域であろうというように思います。私は、この地域の取組みが全国の農業にとって、農林水産業にとって非常によい刺激になるということを期待しております、私どもとしても、この地域の農業の持続的な発展に向けて全力で応援をしていきたいというように考えております。

最後に、今回のサミットが実りあるものとなり、三遠南信地域のさらなる発展につながるということを祈念いたしまして、簡単ではございますけれども私からのお祝いの御挨拶とさせていただきます。

本日はどうも、おめでとうございます。

**■ 国土交通省中部地方整備局副局長
渡辺秀樹 様**



皆様、こんにちは。本日、第21回目の三遠南信サミットがかくも盛大に開催されたことにつきまして、心からお祝いを申し上げますと思います。

また、日ごろから国土交通行政、また私どもの地方整備局の事業に対しまして格段のご支援、ご協力をいただいていることに厚く御礼を申し上げる次第でございます。

この三遠南信サミットにつきまして、私事になりますが、私は十数年前に静岡県庁のほうに出向しております、そのときこの三遠南信に関係する仕事も担当しておりました。そのとき三遠南信という言葉は初めて聞いた

わけでございますけれども、余り耳なれなかった印象がございます。何かフランス語のような響きの言葉だなと思った覚えがありますけれども、それから21回目ということで、大変多方面にわたって取組みが格段に進化してきているというように感じておりました、そのうちの一つがインフラの整備充実ということではないかと思っております。

先ほど来、会長さんを初めとしまして、いろいろお話が出ておりますけれども、今年の3月に初めて愛知・静岡を結ぶ三遠南信自動車道の鳳来峡インターから、浜松いなさ北インターの約13キロメートルが開通いたしましたし、4月には新東名高速道路の御殿場ジャンクションから三ヶ日ジャンクションまでが開通しまして、非常に広域的なネットワーク化が図られたところでございます。

また、この新東名高速道路につきましては、愛知県側も平成26年度には開通が予定されているということでございますし、三遠南信自動車道につきましては、長野・静岡を結ぶ青崩峠におきましては昨年度に本線工事に着手、また静岡・愛知を結ぶ佐久間・三遠道路の（仮称）佐久間第一トンネル本体についても昨年度に着手しているということで、着実に事業が進んでいるところでございます。水窪北～佐久間間につきましても、昨年度から計画段階評価を実施しているところでございます。また鉄道でも、先ほど来、お話に出ておりますリニア中央新幹線の駅が、こちらの飯田市に設置されるということで位置も決まってきたということでございまして、こういった高速道路、高速鉄道などの社会資本が目に見える形で、当時は夢でしかなかった事業が、まさに目に見える形で進められているという地域であろうというように思っております。

こういったインフラは、私ども国土交通省が非常に力を入れてやっているところでございますけれども、やはり三遠南信サミット

という意味で言えば、それを利用して今後の地域づくりをどうしていくのかということが本当に重要なことであろうかなというように思っております。少子高齢化社会の、いわば先進地域であるような地方部におきまして、こういった三遠南信サミットのような先進的な取り組みを、20年前から取り組んでおられるということに非常に敬意を持って、ずっと眺めてきているところでございますけれども、今後とも、こういったインフラも活用しながら交流、地域づくりについて、ますます進めていっていただくことが、望ましいのではないかと思います。

今後とも、三遠南信地域のますますのご発展、それからご臨席の皆様方の一層のご発展を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます

本日は、誠にありがとうございました。

■経済産業省関東経済産業局地域経済部長 野口聡 様



皆様、こんにちは。局長の安藤は、別件での所用がございますため、局長から預かりました祝辞を代読させていただきます。

本日は、三遠南信サミット2013 in 南信州が関係各位のご協力により、かくも盛大に開催されることを心よりお喜び申し上げます。また、ご臨席の皆様には日ごろより経済産業行政に多大なるご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

私ども関東経済産業局は、経済産業省の

地方機関として長野県、静岡県を含む1都10県の広域関東圏において、産業クラスター政策などを通じまして地域経済の活性化、中小企業支援など、経済産業政策を実行してまいりました。最近では、アベノミクスの三本目の矢である「日本再興戦略」と、関東経済産業局で策定しました「関東新産業創出戦略」をいち早く地域で展開するため、具体的なアクションプラン「関東経済産業局行動計画2013」を策定し、現在、取り組みを進めているところでございます。その中では、新産業分野として四つの重点分野を特定しておりますけれども、三遠南信地域でも取り組みが進む健康・医療・福祉分野、航空宇宙分野、地域資源の掘り起こし・発信を行うクリエイティブ産業分野が含まれております。

三遠南信地域では、これまで産業クラスター計画に沿って、三遠南信クラスター推進会議の皆様を中心に地域イノベーションに取り組んできていただきました。最近では、飯田地域における航空宇宙分野の共同受注や海外販路開拓への積極的な活動、浜松地域における医工連携や次世代輸送機器分野への取り組み、豊橋地域における植物工場、農商工連携の動きなど、新産業の創出に取り組んでいただいております。私ども関東経済産業局も、三遠南信地域におけるさらなる新産業の創出に向けて、皆様と協力して成果を上げていきたいと思っております。

三遠南信サミットは、本年度で21回目の開催でありますけれども、三遠南信地域が一体的な都市圏として発展するため、県境を隔てた三つの地域の皆様が一堂に会し、文化や歴史、交通、生活環境、産業振興など多岐にわたる議論が行われ、三遠南信の連携の指針として三遠南信地域連携ビジョンが生まれたとお聞きしておりますけれども、長きにわたり取り組みを継続し、成果を蓄積されていることは大変意義深いことであり、関係者皆様のご努力に敬意を表する次第であります。地域

の元気なくして国の元気はないとよく言われますけれども、三遠南信地域連携ビジョンの実践を通じて、三遠南信地域から多くの新産業が創出され、国内経済を牽引していただけることを期待しております。

最後になりますが、本サミットの開催に当たって多大なご尽力をいただきました鈴木会長、牧野副会長をはじめ、関係者の皆様に心から敬意を表しますとともに、三遠南信地域のますますのご発展並びに本日ご参加の皆様方の一層のご活躍を祈念いたしまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

本日は、おめでとうございます。

■長野県副知事

和田恭良 様



皆様、こんにちは。阿部知事は今、海外渡航中のため、代わりまして私が御挨拶申し上げます。まずは三遠南信サミット2013がこのように盛大に開催されますことを心からお喜びを申し上げたいと思います。

県境を越える、この三遠南信地域の連携を深めまして、自発的な地域づくりにいち早く取り組んでこられました関係者の皆様、長年のご尽力に本当に心から敬意を表する次第でございます。この連携の大きな象徴とも言える三遠南信自動車道ですが、昨年、新東名高速道路に接続されました。この結果、交通の流れが大変活発になっておりまして、信州への入り込み客も大変増加をしているということでございまして、この整備の効果が非常

に大きく出ているのではないかと考えております。この整備がさらに進みますと、本県の場合でございますが、この南信地域のほとんどの地域が中央道から1時間以内でつながってくるということでございまして、防災面のみならず医療救急面などでも、その効果は大変大きなものがあると考えております。

こうした整備をさらに進めまして、その効果を着実に地域内外の発展に結びつけていくこと、これは県としても重要であるという認識のもと、今年度、策定いたしました「しあわせ信州創造プラン」の中にも、しっかり明記をさせていただいているところでございます。

また、このプランの中でございますけれども、この地域のように県境を越えて伝えられ、また非常に特徴的な芸能文化のつながりというものも守っていくことを含めまして、県としてもこの文化振興に力を入れていきたいと考えております。これまで厳しい財政状況のもとで、ややもするとこういう文化というものは片側に置かれがちでございましたけれども、来年度に向けまして、組織改正を検討しておりますが、その一つとして、文化振興や文化面における組織強化というものも図ってまいりたいと考えております。

いずれにしても国、市町村の皆様を初め、関係各位のご理解、ご協力のもと、この地域を劇的に変えていく可能性を含めましたリニア中央新幹線の駅に伴う関連整備とともに、県としてもしっかりと取り組み、地域の発展につなげてまいりたいと考えております。

結びに、本日のサミットを通じて広域的な連携がますます強固なものとなりますこと、そしてご参加の皆様の今後ますますのご活躍を祈念いたしまして、私の御挨拶とさせていただきます。

本日は、誠におめでとうございます。